

環境調査結果のお知らせ

令和6年10月28日10時から野見湾の環境調査を実施しました。

概況

検鏡の結果、魚類に対して有害なプランクトンは確認されませんでした。

海や養殖魚、貝類の状態に不安や変化を感じた時は、良く洗ったペットボトルに海水を汲むなどして、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン
	深度 (m)	水温 (°C)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	珪藻
A ガラク (6.2m)	0	25.6	33.3	5.9	100
	2	25.6	33.6	5.9	30
	5	25.8	33.8	6.0	30
	10	25.9	33.8	6.1	5
	底層 23	25.8	34.0	5.7	-
B 勢井 (6m)	0	25.7	33.6	5.5	80
	2	25.7	33.6	5.5	40
	5	25.8	33.8	4.5	0
	10	25.8	33.9	4.4	6
	底層 18	25.8	33.9	5.2	-
C 馬の背 (5.5m)	0	25.7	33.7	5.3	30
	2	25.8	33.8	5.6	10
	5	25.8	33.8	5.2	10
	10	25.8	33.8	5.1	10
	底層 23.5	25.8	34.0	5.8	-
D 大室戸 (6m)	0	25.7	33.7	5.5	30
	2	25.7	33.7	5.4	30
	5	25.8	33.8	5.4	40
	10	25.8	33.8	5.6	20
	底層 20.5	25.8	34.0	5.8	-
E 白浜 (6.2m)	0	25.5	33.4	6.2	-
	2	25.7	33.7	5.9	-
	5	25.8	33.8	5.7	-
	10	25.8	33.8	5.7	-
	底層 17	25.8	33.9	6.0	-
F 湾奥ブイ (4m)	0	25.5	33.6	6.2	60
	2	25.8	33.6	5.6	90
	5	25.8	33.8	4.9	40
	10	25.9	33.9	5.8	40
	底層 16	25.8	34.0	5.7	-



- A: ガラク E: 白浜
 B: 勢井 F: 湾奥ブイ
 C: 馬の背
 D: 大室戸

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準（※1）	警戒基準（※2）	主な赤潮発生時期 ※3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
<i>Karenia mikimotoi</i> (カレニア・ミキモトイ)	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5～8月	6～8月	—
<i>Chattonella</i> spp. (シャットネラ属)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6～8月	—	—
<i>Cochlodinium polykrikoides</i> (コクロディニウム・ポリクリコイデス)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—	2～4月	5～6月
<i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ)	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3～12月	4～8月	4～11月
<i>Dictyocha</i> spp. (ディクチオカ属)	魚類等のへい死	—	5,000 cells/mL	6～7月	4月	—
<i>Takayama</i> spp. (タカヤマ属)	魚類等のへい死	—	10,000 cells/mL	8～9月	—	—
<i>Heterocapsa circularisquama</i> (ヘテロカプサ・サーキュラリスカマ)	二枚貝のへい死	—	500 cells/mL	8～11月	—	—
<i>Alexandrium</i> spp. (アレキサンドリウム属)	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—	1～4月	3～5月
<i>Gymnodinium catenatum</i> (ギムノディニウム・カテナータム)	二枚貝の毒化	—	1 cell/mL	—	—	2～7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。